

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570600298		
法人名	医療法人社団 慶城会		
事業所名	グループホーム 仰星台	ユニット名	2号館
所在地	日向市大字塩見10946-1		
自己評価作成日	令和6年 6月12日	評価結果市町村受理日	令和6年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_topiigvosvo_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和6年8月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは自然豊かな高台に位置しており、近隣には同法人の関連施設があります。医療機関が母体であり、介護職員による気づきを下にホームの看護師や主治医との連携を図ることで適切な受診が行え、利用者様が健康で安心して暮らせるように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体である医療機関を中心に系列の施設が近接しており、緊急時や災害時における協力関係が構築されている。ほとんどの介護、看護職員は経験が豊かで、研修会や勉強会にも積極的に参加し、学んだ事は全員で共有し資質の向上に務めている。職員にとって意見や要望等何でも言い易い環境が働く意欲につながっている。「笑顔と安心のある暮らし」の理念は職員の笑顔が利用者の安心につながるとの思いで作られ日常の様々な場面で実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新たに理念を見直し、玄関、ホールに掲示し、全職員が常に理念を意識して業務にあたるよう心掛けています。		状況の変化により、今回理念の見直しを行っている。1,2号館それぞれに全職員で作り上げ、一人ひとりが意義の理解に努め、日常のケアに意識して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しています。区長や民生委員、回覧板を通して、区の行事等の情報をいただいています。また、地域の清掃活動に参加することで交流に努めています。		ホームの立地柄、日常的な交流は少ないが地域の行事には積極的に参加している。区長、民生委員が運営推進委員で関わっており、地域とのつながりは継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用者様の現状や活動を報告しています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、会議メンバーの方より意見やアドバイスをいただき、改善点は検討しサービスの向上に努めています。		会議で出された意見や提案は職員全員で共有し、サービス向上に取り組んでいる。ホームからも新聞紙が不足していることを相談したところ、委員の配慮で地域より届けられるようになった。家族の参加を促すための方法を模索中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政の担当者から各種情報がこまめに届いています。又、運営推進会議にてホームの現状を報告し、意見や助言、アドバイスをいただいたり、こちらからの質問等にも丁寧に説明していただいています。		日頃から連絡、報告、相談は密に行い、情報の共有に努め、協働の関係は構築されている。認定更新時の利用者や家族への説明事項等のアドバイスも受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3ヶ月に1回実施しています。議題を決め、職員全員で話し合い取り組むことで、理解と意識付けを行っています。また、玄関の施錠はせず、見守りを重視し、安全の確保に努めています。		適正委員会は職員全員参加で、拘束に関連した動画を見たり、勉強会を行っている。チェックリストの活用で、定期的にケアの振り返りや見直しを行っており、職員の意識の向上につながっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の芽チェックリストを活用し、職員一人ひとりの意識付けを行い防止に努めています。			

自己	外部	項 目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当する利用者様はおりません。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時に説明を行っています。不安や疑問点があれば、その都度説明を行い理解をいただいています。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族が意見や要望・不満・相談を気軽に言っていただけるような雰囲気や言いやすい関係が築けるよう心掛けています。ご家族から意見や要望等があった際は、職員間で話し合い希望に添えるように努めています。		面会時に職員との対話の時間を設けている。また、毎月送付している便りで個々の利用者の状況を知らせている。そこで出された意見や感想等は職員で共有し、サービス向上につながるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会の中で、職員の意見交換ができるようにしています。また、常日頃から意見や提案は受け入れ、話し合い検討し実践しています。		日頃の気づきやアイデアなどを全員で話し合い、ケアの中で生かす工夫を行っている。個人のメンタル面に関しても、個別に話を聞く時間を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は資格取得をサポートしてくださり、職員のレベルアップに繋がるよう支援していただいています。介護職員は処遇改善手当を算定しています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの担当に合った研修に参加することができ、また、その内容を定例会等で全職員に伝え、皆で取り組んでいけるよう努めています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列のグループホーム管理者会を行っており、情報共有を行っています。			

自己	外部	項 目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自然とお話していただけるような雰囲気作りを心掛けています。また、コミュニケーションを図りご本人の気持ちに寄り添い安心して生活できるよう努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話や相談しやすい雰囲気作りに努めています。ご家族が不安に思っていること要望に耳を傾け、ご本人やご家族が安心できる生活を提供できるよう努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	繰り返し情報収集を行い職員間で共有し、ご本人やご家族の意向をもとに、必要とする支援や環境が提供できるよう努めています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と職員が一緒にできる楽しみや興味があること等、関りを多く持つことで互いに親しみの持てる関係が築けるよう心掛けています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月利用者様の生活の様子等をお手紙で報告しています。また、面会時にも日々の様子等をお伝えし、利用者様が希望される時は電話で話していただいています。ご家族と情報を共有し信頼関係を築いています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限はありますが、施設内の一角に面会場所を設け、誰でも面会できるようにしています。また、ご家族の「外出させたい」との要望があれば、主治医に相談し対応行っています。	利用者の高齢化もあり、感染防止のため積極的な支援は難しいが、今年から利用者、家族、ホームの都合を合わせ、短時間ではあるが「自宅に帰る」支援を計画、実行している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設生活の中で、性格や相性を考慮して利用者様同士のコミュニケーションや良い関係が維持できるよう配慮しながら支援しています。			

自己	外部	項 目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所された場合でも、面会を行って経過を見守り対応しています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話や発する言葉の中から希望・意向の把握に努め、職員間で共有し支援に努めています。困難な利用者様に関しては、ご家族の情報を参考にしながら職員間で話し合い支援に取り組んでいる。		日常の会話や表情から知り得たことなどを職員で共有し、思いの把握に努めている。困難な場合は、家族からの情報を参考に、本人本位の支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活環境や施設へ入所に至った経緯についてご本人やご家族から情報を得、以前入所されていた施設での状況情報をふまえ、その人らしい生活が送れるように努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や職員間での話し合いの中から、知り得た情報で現状の把握に努めています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回定例会（ケア会議）を行い、一人ひとりの課題について話し合いをしモニタリングや評価を行っており、ご本人、ご家族の意向を踏まえ、介護計画の作成を行っています。		アセスメント記録をもとに、担当者を中心に職員全員でモニタリングを行っている。計画書は職員全員で共有し、いつでも見ることが出来る。状態の変化に応じて、随時の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録と送りノートを活用し職員間で共有しています。また、月1回の定例会の中で個々の課題とケアのあり方について話し合いを行っています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族の状況、ニーズなどに対応できるよう事業所の機能を活かしながら、できるサービスや柔軟な支援に努めています。			

自己	外部	項 目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会には加入しているが、行事に参加することは、コロナへの感染を考えると困難です。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の定期受診を行っています。かかりつけ医が系列の医師であることもあり、急変時や突発的な場合でもすぐに連絡が取れ指示をもらうことができる状態にあります。		利用者全員が母体である医療機関をかかりつけ医としている。緊急時でも適切な医療が受けられる体制が整っている。歯科は利用者からの希望があれば、往診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護師とは連絡が取れる状態にあり、報告、連絡、相談を行っています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、入院先の相談員や看護師、介護職員より情報収集を行い、状態の把握に努めています。また、退院後ホームでの生活が可能であるか等話し合いを行っています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に、重度化に対する指針についての説明を行い同意書をいただいています。利用者様の状態の変化に応じて、どこまでの支援が必要で、できる事とできない事の話し合いを持ち、情報共有に努めています。		入居時に重度化や終末期に向けての説明、又状態の変化に応じての話し合いも行っている。しかし、家族を含む関係者が、その都度方針を共有していくための体制作りが不十分である。	関係者の意向にずれが生じないためにも、重度化や終末期に向けた書面を整備し、なお且つ、同意書を活用し、方針を共有するための取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急や事故発生時には看護師や主治医へ連絡し指示を仰いでいます。緊急時マニュアルを準備、応急手当等自信がなく不安なことは、ホーム看護師より指導を受けています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防関係者指導の下、年3回訓練を実施、消火、通報、避難時の手段・手順の確認を行っています。備蓄品を管理、停電に備え、発電機を設置しています。		日中、夜間を想定した訓練は利用者と一緒に実施している。ホームは民家のない高台にあるため、敷地内にある系列の老人保健施設とも連携した訓練を行っている。ユニットごとに役割を決めている。居室入り口には防災頭巾も準備している。	

自己	外部	項 目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりその人に合った言葉かけ、対応を心掛けています。また、虐待の芽チェックリストを実施し自分の対応を振り返り、意識付けを行っています。	チェックリストを使いケアの振り返りを行うことで、言葉かけや対応の見直しを行っている。利用者の人格を尊重したケアを職員全員が心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いくつかの種類の中から食べたいおやつを選んでもらったり、自由時間には、塗り絵や計算問題、パズル、テレビ鑑賞等、やりたいことをそれぞれに行ってもらっています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レク活動等の時間は声掛けを行っていますが、ご本人の体調や気分により無理強いせず自由に過ごしていただいています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に外部へ散髪の依頼をし、本人様の希望や好みにカットしていただいています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様には味見をしていただき、「砂糖をもう少し入れたほうがいいね」「醤油が足らんようにある」「美味しいよ」等々意見をいただいています。食後はお膳拭きや台ふき等できることをお願いしています。	利用者の状態に合わせた量や形態を考慮した食事の支援を行っている。準備や後片付けと一緒にしたり、臭いでメニューを当てることを楽しみにしている利用者もいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「食品群分けシート」や食事チェックリストを活用し、栄養バランス・食事摂取量・水分量に気を付けています。また、食事形態など一人ひとりの状態に合わせ、その都度検討し変更しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや介助にて口腔内の清潔保持に努めています。			

自己	外部	項 目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに、個々の排泄パターンや習慣を把握し、定期的な排泄の声掛け、誘導、介助を行い失敗を減らせるよう支援しています。		数名の利用者は自力でトイレでの排泄が出来ている。パット類の変更についても記録や日々の状態を把握しながら、職員全員で随時検討を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便状況を確認し、便秘がちな方には水分を多めに摂っていただいたり、牛乳で排便を促しています。頑固な便秘の方は受診時、主治医へ相談しています。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好みの湯加減や、入浴剤を活用してゆっくりと入浴できるように心掛けています。湯船に浸からない方には足浴を行っています。入浴拒否があった場合は、無理強いせず時間を変えたり、入浴日を変更する等の対応をしています。		浴槽に入る方、シャワー浴の方それぞれの希望に添った支援を行っている。入浴を拒む利用者には耳を傾け、その理由の理解に努め抑制のない対応で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活リズムや体調に応じて、休息や昼寝を促しています。日中はレク活動に参加していただき、夜間はゆっくりと睡眠がとれるよう努めています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬については、看護師からの説明や、説明書をもとに、効用・副作用の把握に努めています。症状の変化があれば、主治医や薬剤師に報告・相談し薬の変更・調整をしています。誤薬・飲み忘れが無いようWチェックを行っています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人やご家族から知り得た情報をもとにその人の出来ること、やりたいこと、楽しみ、趣味等を一緒に考えながら楽しく生活が送れるよう支援しています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その季節に合った花見、初詣等、系列の運転手さんをお願いし外出行っています。天気の良い日は庭や近隣の施設まで散歩したりして気分転換を図っています。ご家族からの外出希望時は主治医の指示のもと支援しています。		日中の暑さを避け、敷地内での散歩を行っている。受診時の帰りに、希望の場所等へのドライブで気分転換を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設での金銭管理(預り金)は行っていません。必要な物等は、ご家族にお願いしたり、ホームで立替を請求しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様より電話の希望があれば電話をかけ話をさせていただいています。携帯電話を所持され、携帯電話でやり取りされている方もいます。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間の中で季節を感じていただけるよう、季節の草花を飾ったり、行事の写真を掲示しています。また、照明や温度等にも配慮し、心地よい生活ができるよう努めています。		共用空間は、台所、食堂と一体化した造りになっている。周りを囲んでいる廊下は幅広く、導線はしっかり整備されている。トイレ誘導の手作り表示や足元センサー灯も設置され、安全面での工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士過ごせるよう座席の配置にも気配りしています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自身が使用していた布団などを持ち込んでいただいたり、家族写真を飾られたりと居心地よく安心できる空間づくりに努めています。		家族の写真が飾られていたり、洋服類も箆笥ではなくハンガーラックに掛けていて利用者本人が好みを選べるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には手すりを設置し、段差もなく安全に生活ができるような作りになっています。それぞれの身体機能に合わせ、ベッド柵のバーやセンサーマット使用により、転倒リスクの軽減ができるように支援しています。			